



ハーブと薬の相互作用

ハーブとは一般に、細かく砕いたり抽出したり、その他の方法で調製された、健康上の有益性を得るために使用される植物のことをいいます。ハーブも処方薬や市販薬と相互作用を起こすことがあります。広く知られているハーブの中からいくつかをとりあげ、薬との相互作用について紹介します。

今回の内容は、ハーブ(漢方薬も含め)がかなり広く使用されていると言われているアメリカでよく読まれている「最新メルクマニユアル医学百科 家庭版(2004)」の「サプリメントと薬の相互作用」から抜粋して作成しました。

尚、薬とは異なり、ハーブは製品の純度や含まれていると主張されている有効成分とその含有量について規制を受けていません。このため製品によっては純度が低い可能性もあり、また1回の投与量に含まれる有効成分の量が、特にハーブ全体を粉砕したり抽出して作られた錠剤・カプセル・溶液などの製品では、ばらつきがあるかもしれません。製品中の有効成分が表示より少ないものや多いもの、場合によってはまったく入っていないものや余分な成分が入っているものがあることに留意する必要があります。

◆カモミール

デイジーの花に良く似たこのハーブは、乾燥してお茶やエキスとして用いられます。炎症や発熱を軽減する働きがあり、軽い鎮痛剤として、また胃けいれんや消化不良の軽減にも使用されています。カモミールエキスを塗ったシップは、皮膚の炎症を緩和します。

【相互作用】

●抗凝固薬 (ワルファリンなど)

出血の危険性が高まります

●バルビツール酸 (フェノバルビタールなど)、その他の鎮静薬

鎮静薬の作用を強めたり長引かせたりします

●鉄剤

鉄分の吸収を低下させることがあります

◆イチョウ葉

イチョウ葉はイチョウの木の葉から得られたものです。血小板の凝固傾向を抑制し、血管を拡張して血流を良くし、炎症を抑えます。めまいや、頭痛、耳鳴り、物忘れ、気分障害の治療にも役立つことがあります。

【相互作用】

●抗凝固薬 (ワルファリンなど) アスピリン 非ステロイド性抗炎症薬

出血の危険性が高まります

●抗けいれん薬 (フェニトインなど)

抗けいれん薬の効果を低下させることがあります

●MAO 阻害薬 (うつ病の薬)

MAO 阻害薬の効果を強め、頭痛やふるえ、そう状態など副作用の危険性を高めます

◆ ニンニク

ニンニクは血小板の凝固傾向を抑制します。ニンニクを大量摂取すると、血圧や腸の過剰運動を抑え、血糖値をやや下げることがあります。

【相互作用】

- 抗凝固薬（ワルファリンなど）
出血の危険性が高まります
- 血糖降下薬
血糖降下薬の効果を強め、血糖値を過剰に下げのおそれがあります
- サキナビル（HIV 感染の治療に使用）
サキナビルの血中濃度を下げ、効果を弱めます

◆ 薬用ニンジン

ニンジン製品には、生の根や乾燥させた根、エキス、液剤、カプセル、錠剤、化粧品、炭酸飲料、お茶といったたくさんの剤形がありますが、品質にはかなりばらつきがあり、検出可能な有効性がほとんど入っていないものも多くみられます。性的能力を含む身体能力と精神能力を高め、ストレスや老化による有害な作用に対する抵抗力や活力を増進するのに用いられています。

【相互作用】

- 抗凝固薬（ワルファリンなど） アスピリン 非ステロイド性抗炎症薬
出血の危険性が高まります
- 血糖降下薬
血糖降下薬の効果を強め、血糖値を過剰に下げのおそれがあります
- ステロイド薬
ステロイド薬の副作用を強めるおそれがあります
- ジゴキシン
血中ジゴキシン濃度を上昇させることがあります
- エストロゲン補充療法
エストロゲンの副作用を強めるおそれがあります
- MAO 阻害薬（うつ病の薬）
MAO 阻害薬の効果を強め、頭痛やふるえ、そう状態など副作用の危険性を高めます
- オピオイド（麻薬）
オピオイドの効果を弱める可能性があります

相互作用が実際にどの程度影響を及ぼすかどうかについて、はっきりとしたデータはありませんが以上のように記載されています。ハーブを摂取される場合は、医師や薬剤師に相談されることをお勧めします。

出典：最新メルクマニユアル医学百科 家庭版（2004）

しいのみ薬局	関市上白金 105-1	☎0575-27-0130	Fax 0575-27-0131
しいのみセンター薬局	岐阜市北山 1-14-27	☎058-241-1818	Fax058-241-1839
華陽しいのみ薬局	岐阜市祈年町 1-19-2	☎058-271-1640	Fax058-275-1949

お薬や「健康食品」のことなどに関して、Eメール(shiinomi@blue.ocn.ne.jp)によるご相談もお受けしています。お気軽にご相談下さい。

ファルマネットぎふ ホームページ(<http://www.pharma-net.co.jp>)